

令和6年度 第1回日田市森林整備推進連絡協議会 議事録

日 時：令和6年8月2日(金) 14:00～16:00

場 所：日田市役所 7階 中会議室

次 第

1. 開会
2. 委員紹介（変更の方のみ）
3. 委員長あいさつ
4. 協議内容
 - (1) 令和5年度森林環境譲与税の取組実績について 資料1
 - (2) 森林環境譲与税と譲与基準について 資料2
5. その他
6. 閉会

1. 開会

2. 委員紹介（変更の方のみ）

- ・ 人事異動に伴う新委員の自己紹介

3. 委員長あいさつ

4. 協議内容

（委員長）

それでは、次第に従い協議内容（1）令和5年度森林環境譲与税の取組実績について、事務局より説明をお願いします。

（事務局）

事務局 資料1説明〔省略〕

（委員長）

初年度の令和元年度は、国から4つの柱だけ示され、何をしたらよいか随分悩んだことだと思う。年を重ねるごとに現状は自信をもって事業を執行し、優先順位を順守しながら、公平性と公共性を担保しながら少ない人数で実施している担当者に敬意を表しながら、とというものの、範囲が広いので、皆さん方から意見・質問があればどうぞ。

(委員)

普及啓発活動に関して、木と暮らしのフェアの開催とかのイベントに関して、長いことやっているが、展示への誘いもあったが、何の意味もないので出展しないと断った経緯もある。単なる祭りみたいな感じになっており、普及啓発をやるなら、もっとポイントを絞って市民の皆さんとか、需要の掘り起こしとかをやった方がいいと考える。これだけの環境譲与税の会議をやっている中で、苗作りから植林・育林・伐採・搬出・市場・製材所・販売問屋・材木屋・工務店・健康住宅の完成、健康住宅がいかに身体にいいか、とかいうのを、ひとつのドキュメンタリー映画として、いろんな場面で活用できるような、映画・DVDをつくって、またそれを多くの方々に差し上げられるようなことをしていったらいいのではないかと思う。

なかなか、木の家がいいよと言いながら、昨今のローコスト住宅において、内装材とか、天井・壁・床をみると100%木材を使わない。ローコストにこだわって、あとは手離れのいいように。しかしながら、これは、病気の蔓延をするような環境をつくっているようなふうにしかならない。うちに住んでいる孫は、まわりがぐるとスギの塊なので、保育園で、「お宅のお孫さんは何で流行り風邪に罹らんとやろうか」と不思議がられている。そういったことを世の中の人にもっと多く知ってほしいと思う。

それと、もう1つ、この前から企業を呼んで勉強会をしてもった。非常に勉強になるし、こういった世界があると気づいた。ああいった勉強会をもっと開催してほしい。知恵をつけさせてほしい。そして、いつも言うように超大手とバッティングしないような、棲み分けのできる販売路線を確立してほしい。

(委員長)

今の質問は、普及啓発が、ビデオとかDVDとかターゲットを絞ってやったらどうかという意見であるが、まずは事務局から回答を。

(事務局)

木と暮らしのフェアについては、我々も課題感を持っていた。イベントはどうしても回数を重ねるごとに、内容は同じもので新鮮さがなくなるというのは、我々も感じていた。ただ、何か工夫はできないかということで、健康住宅については、R4年に九大の先生をお呼びして講演会を肉付けしてみたり、いろいろテーマを絞ったようなかたちでやりたいと思い、少し変化を与えてきたところであるが、そもそも祭りに近いイベントというのは、変化がないと新鮮味がなく、来ている方々に広がりがないということを感じていた。そのあたりは、イベントの中身も協議会をつくっており、そこで意見もいただきながら改善をしていきたいと思っている。

(委員長)

木と暮らしのフェアは業界の結束のためにあるものでもなんでもなくて、目的は市民への啓発である。啓発について意見のある方はどうぞ。

(委員)

資料7 ページの11番のパンフレット作製の10,000部はどのような方を対象にした、どのような内容のものであるか。

(事務局)

このパンフレットについては、皆さんも1度は目にしていると思われる「H I T A F o r e - S t o r y 日田林業の物語」というもの。平成28年につくられたもので、在庫がなくなったので、今回増刷した。内容的には日田市の森林・林業・木材産業を全体的に紹介するパンフレットである。

(委員)

わかりましたが、普及啓発につながるのかなと思う。この会が数年前から始まっているが、たったこの2億、3億をみんなの業界で取り合わなくて、全国の600億円を取り合おうと、そのためには、小中学校の机椅子の配布とか大変いい事業をしている。これをパンフレットにして全国の市町村に配ってほしい。環境譲与税を使ってない市町村がいっぱいある。そういうところにも学校は必ずある。そういうところに机椅子のパンフレットを配って是非とも注文してくださいと、それが、一番の普及啓発ではないかと思う。そんな使い方のパンフレット、やり方を考えてほしい。

(事務局)

(増刷した)パンフレットについては、イメージパンフみたいなもので、山のこと、木材のことといった流れでつくったもので、よく配られているのは、高校生の修学旅行などで、そのような使い方をしている。それ以外で、観光客とか、視察とかで利用しており、要するに市外の方が日田市にやってきた場面で、日田のことを理解してもらうために活用している。

学習机については、そもそもつくった経緯は日田の木材を使って、日田家具を使って、その家具をできるだけ日田だけでなく、市外の方々にも共感をもらえれば、同じように作ってもらえるのではないかとの思いもあった。今、日田材を使って、日田市内の小中学校に導入を始めており、譲与税を充当している。そのスキームというか、机椅子を作る際に、小学校・中学校に子どもたちにデザインとか、使い勝手みたいなものの意見を聞きながら、今の形が出来上がったところであり、その子どもたちの意見を聞いて、天板は取り外しが利いて、リニューアルして次の世代に使っていき、古いものは持って帰れるというコンセプトでつくったもの。

そのコンセプトとストーリーを他の自治体に向けてPRしていきたい。パンフレットのようなものはないが、日田家具工業会のホームページとか、林野庁の冊子にも取り上げてもらったが、そういうものを通じながらできるだけ広げていきたいと思っている。まだ公にしてよいかわからないが、他の自治体で興味を持っているところがあり、このスキームを使って、その自治体にも木はあるが、日田材を使って小学校の机椅子をお願いしたい、水面下で広げていて、場合によっては、他の自治体でもこの机椅子が導入されるという実績につながるのではと、そのようなレベルの状態である。

(委員長)

DVDなどの映像の件だが、一昨年、育樹祭をしたとき、県が子どもの絵本をつくった。バーコードをつけて、タブレットやスマホでなぞると動画が出てくる。恥ずかしながら私も出た。子どもとかは、自分で試しながらすることもいいかもしれない。興味を持ってくれるかもしれない。子どもがターゲットなら、それもよい。ただDVDを流すのもいいが、一番最近DVDつくったのは木協だと記憶しているが、DVDも悪くはないが、若い感覚でつくらないと、いかにも業界、業界し

たものだったら、食いついてこない。最近、福岡工業大学の先生と、小中高の林業研修をした方がいますが、委員さん何かありますか。

(委員)

違うことを言おうと思っていたが。環境税がこれから 1,000 円、お金を払う側の人から、これって何に使っているのかと真正面から聞かれたことがあって、日田の書類を直接見せたわけではないが、こういったかたちで使われていますと答えたが、知らないし、普通の方はどういうふうに使われているか知らないという状況だと、それに対して説明責任が発生するというのを最近感じている。

2、3 考えてきたものがある、そもそも林道の維持補修というのと原材料支給の 5 番と 6 番の事業はずっとあるが、林道の規格として登録されているものは、市町村に補修費みたいなものは入ってくるのではないかという理解でいたので、譲与税で出しているのは何か理由があるのか。それから、林道台帳の整備事業は、もともとあった紙ベースのデータを電子データにするためにやっているとう理解でいいのか。

(事務局)

市道などと同じように市町村の管理道として登録している林道が 150 路線あって、これらの維持補修については、市の単費で行っている。ただし、災害などで大規模被害を受けた時などは、国から災害復旧費の補助が出て対応している。それから、林道作業道補修用原材料支給事業については、市が管理している林道から先の作業道など地元が管理しているものに対してコンクリートを支給しているもの。林道台帳については平面図といわれる正確な図面がない状態で、現地に行ったらここが崩れているとか、ここで補修が必要とかそういった、ピンポイントの情報が見られないような状況であった。今回、林道台帳をつくるにあたって、道幅・延長などしっかりした平面図をつくるとともに、座標データをとっており、データの活用をいろいろ検討しているが、例えばスマホの Google Earth などに位置情報があるが、林道台帳でつくった平面図データを載せることによって、今、自分が林道のどこにいるかピンポイントでわかるとか、あと、林道データ閲覧システムは、今は、公表する予定はないが、例えば、今現在の健全な状態の法面や路肩などを Google のストリートビューのような感じで、動画で確認できるようになっている。現地に行ったら崩れている箇所について、閲覧システムをつかって崩れる前がどのような状態だったのかというのを確認することによってどういったところが崩れているのかがわかるようになっている。平面図があることで災害査定時のスピードアップが図れる。これからも活用策についていろいろ検討していきたい。

(委員)

公表する予定がないとのことだが、航空レーザー測量もそうだが、税金使って作ったデータをオープンにしないというのは何でというところはあるので、一定のルールで公表するとか、しないのであればしないの理由を今後教えていただきたい。

(事務局)

令和 9 年までの事業で計画しており、もちろん、今、市道台帳等はホームページでオープンになっている。最終的には 150 路線すべてが終わった時点で同じような形でオープンにしていきたい

とは思っている。今は途中段階なので、公表できる状態にはなっていない。事業が完了した段階で市道台帳と同じようにホームページ等で公表できればと思っている。

(委員長)

少し時間が経過したので、実績についての質問は最後にまとめて受けます。
次に、(2) 森林環境譲与税と譲与基準について事務局説明をお願いします。

(事務局)

事務局 資料2説明〔省略〕

(委員長)

それでは、資料1と資料2まとめて質問・意見を。

(委員)

先ほどの委員の質問にもからむが、県でも森林クラウドシステムということで、森林情報をまとめたシステムを作成しているが、日田市の林道のデータも可能なら森林クラウドにも掲載できるようにしてもらいたい。

(事務局)

林道台帳については、令和9年度までとなっているが、今後載せるような方向で検討していきたい。それから、日田市が令和元年度から3年度にかけて、業者に依頼して資源解析をしている。これについては、森林クラウドに載せている。林業事業体の方で契約している方は利用できる。日田市でも交付要綱等を整備しているので、有料にはなるが、必要な資源情報を渡すことは可能である。

(委員)

経営管理の推進事業に関することになると思うが、組合が地区別の総代会を開催したら、組合員から、山の管理をどちらかというと放棄する人が多くなっている、そういう人たちに対して環境譲与税を使ってアンケートか何かできないのかという意見があった。経営管理については、基本的に未整備森林という決まりの中での取組ということで、若干意味合いが違うのは確かであるが、今、どちらかという山を所有している人がどんどん代替わりをして、おじいちゃん、お父さんたちの管理の仕方から全く受け継がれていなくて、考え方がコロッと変わっている人が多い。そういう人たちに今後の管理をどうしていくかのアンケートをとることが、可能なのだろうかと思っている。もし、可能であれば、森林組合が協力しながら、やっていくべきと思う。そういうことが可能なかどうか、今年とか来年とかではないが、近いうちにできるものであれば、検討してもらいたい。

(事務局)

アンケートについては、日田もりビジョンの改訂の時に山林所有者や市民の方を対象に一部アンケートを取ったことがある。中には、放棄したい、寄付したいなど、そういった意見はあった。すべての方を対象にアンケートをとるのは難しく、今後の検討課題だと思っている。

(事務局)

森林組合の協力が得られれば、我々が日田もりビジョンの時に取ったアンケートの対象者以外の人たちの声を聴くということは、やり方を変えれば可能ではないかと思っている。そもそも、譲与税を充当できるかどうかというのは、今、はっきりと言えないが、感覚的には問題はないかなと思っている。ただ、アンケートについては、サンプル数が全所有者ということになれば、相当なボリュームになってくるのでそのあたりは工夫がいるのではと思っている。また、相談させていただきたい。

(委員長)

問題は、アンケートを誰に出すか、それが一番の問題。当然、そういう方のものは、たぶん100%未整備だろうから、譲与税を使う要件には当てはまるのではないかな。ほかにどうぞ。

(委員)

森林環境税の話をしているので、問題は森林環境だ。さきほど、そろそろ納税者に対して説明責任があるという話があった。正直言って納税者は、日田の木材がどうやって売れるかとかあんまり興味はない。興味があるのは、俺がちゃんと金を払うことによって森が守られているかに興味がある。したがって、今回、入ってくる金額も増えるので森を守るところに相当注ぎ込むべきだと思う。資源解析を公表する如何にかかわらず、Googleを見ればわかる。はげ山が増えている状況は、少しでも解消する方向につなげないと国民は納得しない。みんなそう言っている。したがって、本当は、山があって、それを毎年160万㎡県が伐るといって160万のうち、どれだけが完全に森に戻るかということ調べなければいけない。今、だんだん、量を増やして山奥に入りつつある。今までのところは、伐りやすいところからやっている。すでに、3割から4割手つかずの状態になっているけれども、私が知っている限り、きちんと下刈りができているところと、できていないところ、あるいは、下刈りが5年やってあがったところと、あがってないところがあるが、そこが非常に大切。そのためには、きちんと所有者の責任というのを果たさなければいけないし、所有者が手を出せないところを、市もなかなかそこはできないというのは当然だと思う。だとしたら、それをきちんとやる所有者にマッチングして引き渡すべきである。これから、そのマッチングが非常に重要だと思う。それから、5年間で下刈りが終わるといえるのに対して森林組合も5年間であがらないと言っている。これは国の政策でもあるので、県がいいとか悪いとかという問題ではないが、5年であがる場所もあるが、あがらない場所のほうが多い。だとしたら、県の上乗せだけではなくて、市として5年以降のところできちんと守るべき森林は、6年目7年目にも助成するとか。県内の森林組合が言っていたが、10年目の除伐を嵩上げしている。そこで、5年間ほったらかしのところを除伐のお金で復活させると言っていた。要するにその対策をしているのが重要だ。そこをやらないと最後に国民から何を言われるかわからない。それと、もうひとつ、林野庁と話していてもわかるが、岸田総理の2割減らせでてんでこ舞い。スギで有名な日田市で2割減らせといわれたらどうなるのか。例えば小花粉のエリートツリーに変えたらどうかというが、我々も実験をやっているが一向にうまくいかない。好むと好まざるに関わらず、林野庁が真剣に考えているのなら、必ず我々にお鉢が回ってくる。こちらが先手を打って、早生樹とか日田市がリードできる。スギだけでなく新しい森をつくっていくことに関して手を打つ、多様な森をつくっていくことをこの中に謳いこんでいかないと立場がなくなる。

(委員長)

今の意見は広がったが、国民が実際にお金を払う時期になっていて、それを納得させる、なんで森を守るのに金が注ぎ込まれているのか、納得させるために事業の説明もさることながら、納得させられるような事業をとという意見だった。事務局、回答があれば。

(事務局)

林業の会議なのに農業の話で申し訳ないが、マッチングの話だが、農業のほうは地域計画、以前は人・農地プランといていたが、農地を5年後、10年後将来的にどうするかというのを地域ごとに話し合うということが法制化されていて、その地域計画を日田市では令和6年までにつくらなければいけないという状況である。それは農業の話であるが、今の話を伺いながら山に関しても将来自分の持っている山をどうやって維持していくというところを所有者なりに考えて、アンケートという話もあったが、そういうのをして、どこに引き継いでいくのかというマッチングというのが、たぶん国が今後目指している集積集約につながるのではないか思っている。現段階ではそこまで制約はかかっていないかと思われるが、ゆくゆくはまとめて集約をしていくという話が出てくるのではないかと考えており、情報をキャッチしていきたい。

(事務局)

下刈りの話だが、6年から10年の間で環境税をつかって下刈りができるような仕組みも作っている。以前から声をいただいていたので、十分な予算ではないかもしれないが、そういったことに対応できるようなことは考えていきたいと思っている。

(委員長)

時間超過したので、ほかに何かありますか。

(委員)

質問という訳ではないが、昨今天候の具合で、材が出たり出なかったりしているが、昨年日田地区は、原木市場で65万立法メートルくらい扱っている。一昨年もそう、今年も現状でいうとあまり変わらない量を取り扱われている状況である。値段に関しても多少の上り下がりはあるが、あまり変わらない状況で、流通としてはそういったところである。

林業者に対しても、原木市場もそうであるが、伐ればなんとか売れている状況ではあるが、末端までうまく出ていかないとどこかで詰まっていく状況があるので、先ほど言われていた、木材のPR、学校の机椅子の話が出ていたが、今、学校の木造・木質化は大分進んできたが、20年くらい前に鉄筋コンクリートの校舎を改装するときに、木質で全部中をやった際に、それまで、年間200人くらい生徒と先生が風邪や頭痛で休んでいたが、やり替えたら、次の年は10何人に減った。木の効果がプンプンしている時だったとは思いますが、それがずっと続いている。学校の木質化は、業界も手伝いながら、そういった検証をするようなモデルの教室とかを使って、これだけ効果があるんだというところを実際のデータをとって、広げていったらいいと思う。個人の方の健康にこれだけ良いということを実際示していくようなPRがいいのかなと思う。

(委員長)

全国チェーンのお店とか、だいたい腰板は木である。匂いなどを吸湿するからそうしていると思うが、誰も宣伝しない。そういうところに行って宣伝してくださいみたいなことも国産材のPRのひとつになると思う。そのほか何かありますか。

(委員)

森林整備に取り組んで4年目になるが、社有林の管理で、補助金をもらってシカネットをしているが、シカネットで造林した山が守れているのか。社有林にシカネットをしているが、ほとんどシカにやられる。シカネットではなくシェルターは使えないのか。シカネットで市内の山の苗木が守られているのか教えてほしい。もし効果がないようであれば、これだけの金額を使っているのはどうかと思う。違う対策をやったほうが良いと思うが。

(委員長)

委員からお願いします。

(委員)

参考になるかわからないが、国有林は日田市では少ないが、たまたま、シカの被害はあまりない。玖珠町、九重町は甚大な被害がある。自衛隊の演習林が隣にあって、そのシカが普段は仕切りも何もないのでエサ取り放題なところがだ、演習が始まるとシカが逃げてきて、逃げ先が国有林になっている。シカも必死なので、当署で設置しているネットを食いちぎって入ってくる。そのネットは金属を編み込んだものだが、結果的にマッチ棒のように梢端だけ葉っぱが残された状態で、いずれは枯れてしまう状況。それをなんとかしないといけないということで、国の方針ということではないが、県内の事業者で、金属が編み込まれていないので軽い。シカが嫌がる色（赤やオレンジ）がシカの目の前に映るような丈夫なネットを作っており、効果があると聞いたので、当署で試験的に設置しようと考えている。

そのほか、苗木の問題もあり、政府の方針で花粉症対策、30年後には半分にするという問題があり、当署でも更新するときは花粉症対策品種を植えたいとしているが、現状として苗木が不足しているとう状況がある。関係者、事業者や苗木生産者、県の西部振興局からも指導・協力いただきながら検討しており、結果的には当署で分収契約をしている事業体に苗木の生産を自らしてもらうということで、エリートツリーとか特定母樹、そういったものを生産して、森林整備を行うという流れで取組を進めている。さらに、分収林契約を結んでいる山があるが、その中でもクヌギ林があり、そういったところは、契約者が高齢化しており、自分ではできないということで、放置されたりしており、そういった山が200haくらいある。そこをスギやヒノキなどに転換していくことを検討している。そういった時に事業者が手を挙げてくれて、分収林で契約してやってもらうことになったが、クヌギ林は平たんなところに植栽されているものが多いので、その事業者が、機械メーカーと試験的に、高性能林業機械とかを使ってスギに植え替えることを進めたいとしており、来月に機械のデモを行うこととしている。

(委員長)

以前、宮崎の営林署にシカ被害の実験林を視察したことがある。今後、我々が視察に行くときはぜひ受け入れていただきたい。ほかに何ありますか。

(委員)

私は林業に入ってまだ1年しか経っていない。前職は自衛官であり、退職して林業に入った。現場を半年、事務を半年やっている。林業で思うのは、自然の良い環境の中で、仕事ができるというのが非常にいいことと思う。次の世代にこういう仕事をしながら、稼げるということも話していきたい。これをずっと続けていくためには、機械の補助や、人の育成なりをしていかないといけないと思っているが、うちの会社も若い人材がなかなか入らなくて困っているところ。いろんなところに顔を出して、人を集めているところ。若い人材をどんどん入れるためには、今はやりの Instagram などの SNS に林業関係の投稿をしていかないと人が集まってこない。いいところばかりをまず出して、悪いところもあるが、いいところをもう少し宣伝していくようなところがあってもよいのでは。そこに市もそういうお金を使っていけばいいのではと感じた。

(委員長)

いいところをアピールしていく、悪いところをクローズアップするのではなく、全く同感である。私たちがそのような意識でこの業界を盛り上げていきたいと思う。

ほかに何かありますか

(委員)

山主さんへの還元というか、今ある資源がなぜ出来ているのかというのを考えたら、それを持っている人は永遠にやっていて、昔、植えた人がいるからこそ、というところがある。先ほどの普及啓発ではないが、山主が山に行くきっかけとして、以前、交付金事業みたいなものがあって、山へ行って確認をしたり、作業道の草切りして写真と撮ったら、ヘクター当たりいくらかかという補助金が一時期あったと思う。そういうものを100haまでの所有者に出すとか、そういった、山主が山に行く仕組みというか、たぶん森林組合あたりに問い合わせが殺到して大変なことになるかもしれないが、そういったところの仕組みづくりというのがあったら、それが普及につながるのではないかと考えている。具体的にこうしたらいいというのはまだないが、山主が自分の山に行くというのが、一番、普及啓発につながると思っている。もちろん、山好きな人が日田の山に来て、いいなという普及啓発も必要だが、やはり、自分の持っている山に行く、それが、大きかろうが、小さかろうが、それが大事ではないかと考えている。

(委員長)

今の意見は、山から遠ざかっている人たちが、また山に関心を持ってもらうために、森林環境譲与税で管理費として出せないものか、日当とかそういうものが普及啓発に繋がるのではないかと。これは、すぐ結論が出るものではないので、考えてもらえばよいと思う。

私の意見をひとつ

先日、県の行財政改革委員会があった。今、10か年計画と行財政改革のすりあわせをしていて、最後の行財政改革委員会が来週ある。県は、DXで乗りきる予定。DXは、例えば、橋梁やトンネルが50年以上たって、そろそろ傷んできているので、その検査は、昔は、人間が叩いてやっていたのを、今は、ドローンでやる。災害現場もドローン入れたりしている。レーザー計測の件の話が、今日はあまりなかったのはちょっと残念だったが、赤色立体図もできて精密だ。基本線はできた。それに最新のデータをどんどん載せていく。ものすごくお金もかかる。Google で観られると

は言うが Google Earth は粗く精度がない。一番精度があるのは、日田の人が飛ばすオルソ。私が言いたいのは、両森林組合がドローン飛ばしてオルソを作れるか。日田市が何らかの形で、定期的に森林組合に委託して、オルソを作成すれば、最初の赤色立体図のうえに積みあがっていくことで日田の森が守れるような気がする。そういうことも検討いただければありがたい。

概ね予定どおりに協議が終わったと思うので、最後に総評をお願いしたい。

(事務局)

たくさんのご意見をいただいた。森林環境譲与税の使い方を広く公表していく責任があるのではないかという意見、普及啓発の有効な活用の方法はないのか、そこも検討してくれという意見、多様な森そして健全な森づくりというのが重要だということ。また、木材と健康の繋がり発信をもっとやったほうがいいのではないか、将来的に森林の所有者から山をどうしていくのかという意向のアンケートをやったほうがいいのではということ。さらに、シカネットの効果はどうだろうか、他のもっと効果があるようなものはないのかということ、次の世代に林業の魅力を発信していくべきだという意見もあった。日田市で環境税を納付いただくのは約 3,000 万円だが、その 10 倍の 3 億円が入ってくるということを市としては踏まえながら、今までは、ホームページ等での公表は行っているものの、もっといいかたちで、市民の皆さん、国民の皆さんに知ってもらう方策はないかということから考えていきたい。その中で、森林環境譲与税については、林業地日田の観点ということで、森林整備を主体として、担い手の確保育成、木材の利用促進、日田材の普及促進などにしっかり使っていきたい。そして、今まで市として、なかなか取り組むことができなかった木材の流通については、林野庁から服部副市長が就任しているので、その繋がりを大いに活用して少しずつ展開していきたいので、引き続き皆様方のご指導・ご協力をお願いしたい。本日はありがとうございました。

(委員長)

ありがとうございました。それでは、進行を事務局にお返しする。

9. 閉会

(課長)

長時間にわたりありがとうございました。これで協議会を終了する。

令和6年度第1回日田市森林整備推進連絡協議会委員名簿

任期：令和5年8月4日（委嘱日）～令和7年3月31日

No	所属	役職	氏名	備考
1	大分県林業経営者協会	顧問	長 哲也	委員長
2	日田市森林組合	代表理事専務	和田 正明	
3	日田郡森林組合	課長	桑野 哲治	
4	日田木材協同組合	課長	井上 勝喜	代理出席 宮崎 桂一
5	日田地区原木市場協同組合	代表理事	諫本 憲司	
6	日田素材買方協同組合	理事長	横尾 達也	
7	大分県樹苗生産農業協同組合	日田支部長	日高 康弘	
8	大分西部地域林業結衣の会	事務局	橋本 正一	
9	山友会	会長	河津 修一郎	
10	ひた森林有限責任事業組合	代表	矢幡 一法	
11	株式会社トライ・ウッド	部長	津軽 一生	
12	田島山業株式会社	代表取締役	田島 信太郎	
13	マルマタ林業株式会社	取締役	合原 万貴	
14	株式会社大村林業	部長	大村 喜代士	代理出席 戎野 輝彦
15	日本フォレスト株式会社	部長	水田 和幸	
16	大分西部森林管理署	署長	平井 郁明	
17	大分県西部振興局農山村振興部	部長	工藤 祐一	(変更)

(順不同)

事務局：日田市林業振興課